

次に狙われるのはあなたか？

今からできる防犯対策

夏休みが始まり、家を空ける事が多くなる7月。全国各地で被害が後を絶たない、強盗や侵入窃盗事件。また、特殊詐欺も日々手口が巧妙化し、注意しているつもりでも詐欺に気付かないケースも。この機会に、いま一度防犯対策を見直してみませんか。

油断したスキを狙われる

市内で令和4年に発生した犯罪のうち、約2割を「自転車盗」が占め、159件の被害が出ました。また、住宅等への「侵入窃盗」被害も毎年、後を絶ちません。そして、特に注意が必要なのが「特殊詐欺」。認知件数、被害金額ともに年々増加しており、手口も日々巧妙化しているため、誰でも騙されてしまう可能性があります。これらの犯罪は、どこか他人事のように感じてしまいがち。「まさか自分が被害に遭うわけない」、「少しの間だけなら鍵を閉めなくても大丈夫」と思っていますか。あなたがそう油断した些

細なスキを、犯人は狙っているのです。

被害に遭わないためには、「いつ自分が狙われてもおかしくない」という意識を持ち、どのような対策をしたら良いのかを、一人ひとりが考える必要があります。

普段からの備えが重要

市内で起こる犯罪は、私たちが日々生活する中で、少し心掛けて習慣付けてしまえば、簡単に防げるものもあります。「家に対策グッズを備えておく」、「家族間で合言葉を決めておく」など、この機会に家族で話し合っ、防犯対策を見直してみませんか。

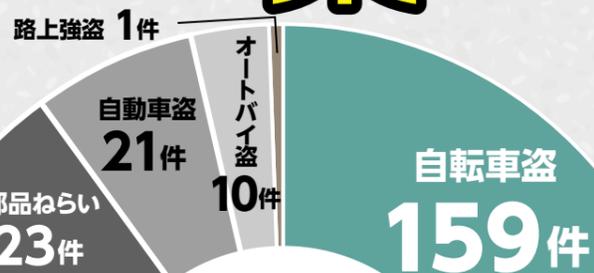
自転車盗の対策

被害の約60%がカギをかけていない自転車



- ① 確実にカギをかける
- ② ワイヤーロックで二重に施錠

※ヘルメットや、電動アシスト自転車のバッテリー盗難にも注意しましょう！



令和4年 市内犯罪認知件数 (818件) のうち 主なもの

5分が分かれ目

働都市防犯研究センターによると、侵入に手間取り、5分以上かかると侵入者の約7割はあきらめ、10分以上かかると侵入者のほとんどはあきらめるといいます。「侵入に時間をかけさせる」。これが侵入されるかどうかの大きなポイントになります。

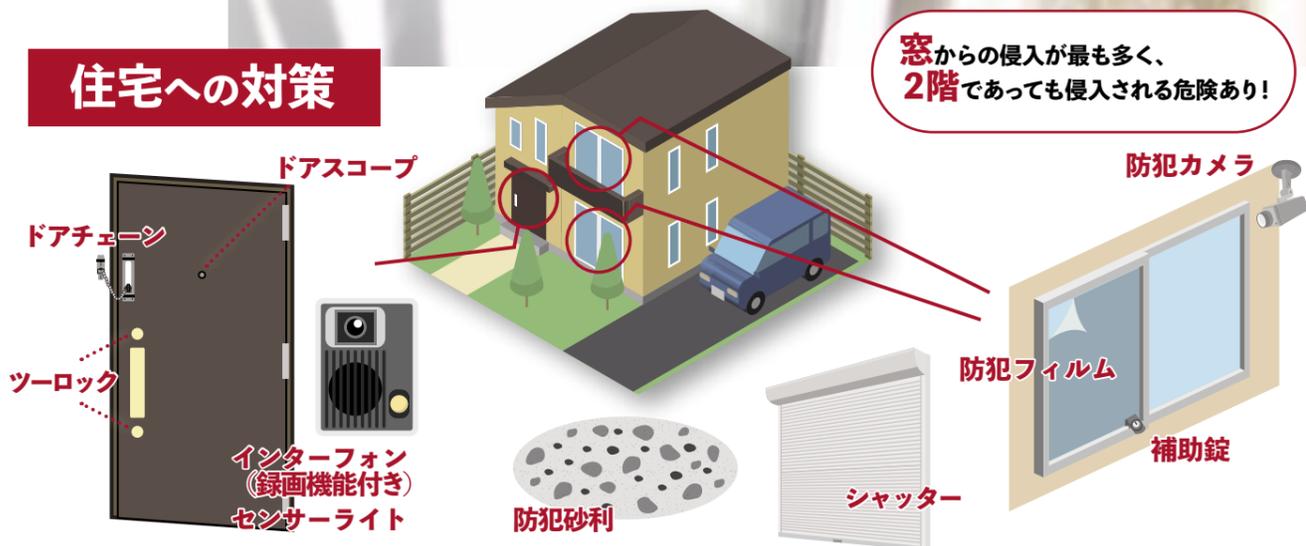
久喜警察署調べ▶ (全818件のうち、生活に身近な犯罪(321件)を抜粋)

— 少しの油断で狙われる —

侵入窃盗

市内で令和4年に発生した「侵入窃盗」(住宅対象以外も含む)の件数は67件。手口は留守を狙った「空き巣」が一番多いものの、夜間の就寝時に侵入する「忍び込み」や、在宅時の昼寝や食事等の間に侵入する「居空き」も発生しており、在宅時でも注意が必要です。

住宅への対策



窓からの侵入が最も多く、2階であっても侵入される危険あり!

地域の安全を地域で守る

備え付けの防犯機能も活用して

現在、市内では空き家の空き巣が非常に多く発生しています。しかし、従来からの留守を狙った空き巣の被害も後を絶ちません。対策としては、2つの方法で考えていただきたいと思えます。まず「入れられない」方法。私は対策グッズの中でも、安価で効果的な補助錠がお勧めです。次に「入られたとしても後から犯人を追跡できる」方法。多くの犯人は、インターフォンを鳴らして留守を確認するので、インターフォンにはぜひ録画機能を付けてください。でも、まずはその前に、住宅に備え付けの防犯機能を最大限活用してください。鍵の閉め忘れには要注意ですよ。

そして一番怖いのが、侵入犯と鉢合わせしてしまうこと。難しいとは思いますが、110番の敷居を皆さんの中で少し下げてください。



久喜警察署 生活安全課長 亀澤 大輔さん

地域の目が防犯の大きな力に

緊急な時は自分で対処しようと思わず、迷わず110番をしてください。久喜市や、管轄の近隣地域ですごくいいなと思うのが、隣の空き家のガラスが割れていると、近所の人から何件も通報が入るんです。それも同じ建物に対して。自分の地域の安全を守らなくちゃという意識を、地域で持つことができていく証拠です。そういう地域の目というのは、とても重要です。今後も、地域が1つの家族のように周りを見ていただきつつ、困ったことは警察などに相談し、我々の気付かない部分をカバーしていただきたいと思います。世代が交代しても、そういう地域の文化は守ってほしいと思いますね。